

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	循環型社会福祉の「命の授業」事業
事業主体 (連絡先)	ジングルライダー
事業区分	(4)安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	リストから選択
総事業費	1,527,900 円 (うち支援金: 1,145,000 円)

事業内容

地域社会における地域福祉の課題を解決するために、今まで継続してきた有害鳥獣の鹿革を活用し命の大切さを伝える「命の授業」の活動を通して、破棄された鹿の命の活用方法を探りながら、貧困家庭、シングルマザー、障害者、DV被害者など経済的負担の多い社会的弱者にお金が循環して回り、誰もが生きがいを持って幸せになれる持続可能な社会を作るために**鹿革アイテム、ステッカー、チラシ**を活用しながら、福祉活動の基盤作りを行いました。



【伊賀良公民館での配布イベント】

【目標・ねらい】

- ①破棄されている鹿革の活用
- ②地域住民への福祉支援
- ③福祉活動支援の仲間作り
- ④貧困家庭への自立支援

事業効果

- ①有害駆除の鹿皮を使った小物を活用することにより、有害鳥獣被害の現状や課題を、昨年度応援してくれた獨協大学ゼミOBや明治大学生の協力のもと、**都会に向けて効果的に伝える**ことができました。
- ②ホームページ、パンフレットを通じて下伊那地域13市町村のうち6市町からDV被害、不登校の相談があり、関係団体の連携のもとに支援をすることができました。
- ③支援活動を通して、各市町村の教育委員会、社会福祉協議会、福祉団体と来年度の活動に向けて協力・連携体制が地盤が整いました。
- ④コロナ禍や様々な理由で貧困家庭となってしまった方に活動を通じて就労支援、食料支援をすることができました。

※自己評価【A】

【理由】

昨年と同様にコロナで活動が進みませんでしたでしたが、活動を通して社会福祉協議会、社会福祉法人、教育委員会、明治大学など来年度の活動に繋がる仲間作りができました。

今後の取り組み

3年間の活動を通して有害鳥獣問題を伝え、さらに有害鳥獣の革を使った小物を手にしてもらうことで「命」の大切さを体感的に伝えることができました。また活動を通して獨協大学、明治大学と一緒に協同で取り組めたことにより、南信州を越えて都会の方にも有害鳥獣問題を伝えることができました。これは大きな成果だと感じています。今年度は最後の活動として交通安全活動と要素の他に「命」をテーマとして参加者の協力をいただきながら不登校児童支援、DV被害者支援、貧困家庭の食料・就労支援などの福祉活動にも力を入れました。しなしながら現実には制度の縛りや組織の連携が薄いため、一過性、または支援できないと場合があります。本当に支援をするに関係団体との連携も大切ですが、それ以上にまずは自分たちが強くなり、経済的にも力が必要であると感じました。来年度以降は3年間の活動で見えてきた地域の課題を解決するために経済と福祉を連動した取り組みを行いたいと思います。